

兵庫県伊丹市 ー既存の取組基盤を活かしたー体的実施の推進ー

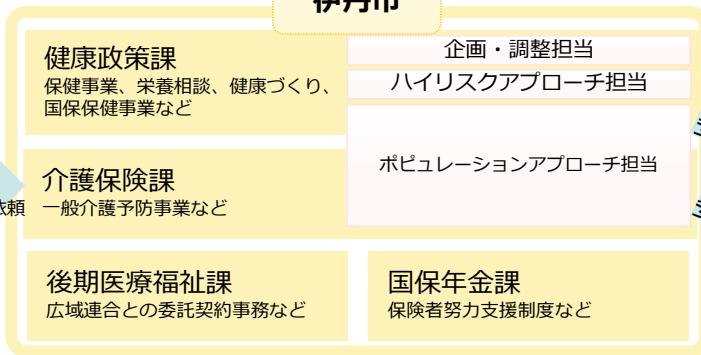
実施体制

市の概況 (令和7年4月1時点)		
人口		194,603人
高齢化率		26.5%
後期被保険者数		30,341人
日常生活圏域数		9圏域

- 市医師会
- 市歯科医師会
- 市薬剤師会
- 市社会福祉協議会
- 地域包括支援センター

相談
意見交換
事業への協力依頼

伊丹市



委託事業者

(ポピュレーションアプローチ事業)

業務内容

- ・ 通いの場でのオーラルフレイル予防に関する健康教育
- ・ フレイル測定会でのフレイルリスク測定

委託
委託

▼一体的実施開始前からの取組

保健事業 (健康政策課)

後期高齢者健康診査
市国保被保険者を対象とした生活習慣病
・重症化予防事業など

課題に感じていたこと

- ・ 各課がそれぞれ事業を実施していたが、他課の取組内容については十分に把握できていなかった。
- ・ 後期高齢者の健康課題は把握していたが、様々な理由から事業化には至らず実施する機会に恵まれなかった。
- ・ 保健師による事業運営が主体であり、様々な専門職と話し合う機会が少なかった。

介護予防事業 (介護保険課)

一般介護予防事業
・ いきいき健康大学
・ いきいき百歳体操活動グループ(市内100グループ以上)の継続支援事業 等

充実

▼一体的実施開始後の取組

保健事業(健康政策課)

ハイリスクアプローチ

- ・ 重症化予防 (糖尿病性腎症、高血圧)
- ・ 低栄養

多職種

企画・調整

介護予防(介護保険課)

ポピュレーションアプローチ (健康教育・健康相談・フレイル状況の把握)

- ・ 地域の通いの場への健康教育 (栄養と口腔の2テーマで実施)
- ・ まちかど測定会 (商業施設等へのアウトリーチ)
- ・ フレイル予防栄養講座「ミステリーツアー」 (フレイル予防について多面的に学ぶ)

一般介護予防事業

- ・ いきいき健康大学 (多職種による講義と体操の実践)
- ・ フレイル測定会 (商業施設等へのアウトリーチ) 等

事業間の連携・相談

適宜、必要なサービスへ接続

ここがポイント

Point 01

事業間をつなぐ支援体制の構築

健康増進分野と国保保健事業を取りまとめる体制の中に、新たに介護予防の視点も踏まえた一体的実施の取組を追加したことで、青年期から後期高齢者までの健康課題を包括的に捉えることができた。また、既存の健康増進事業(まちかど測定会)や一般介護予防事業(いきいき健康大学)も一体的実施事業に取り組みすることで、より高齢者の健康づくりに着目した事業運営や支援体制を築くなど、切れ目のない支援を実施している。

Point 02

日常的に相談できる医療連携体制の確立

一体的実施開始前から築いてきた地域の医療団体との連携体制を活用し、各団体へ事業実施等に係る相談をしたり、協力を得ながら各種事業を実施することができた。

Point 03

専門職連携によるフレイル予防の展開

地域において様々な立場でフレイル予防に関わる専門職(包括・管理栄養士・リハ職・薬剤師・民間の事業者等)の意見を事業の企画段階から取り入れ、多角的な視点を持ち、いきいき健康大学での多職種による講義やフレイル予防栄養講座等を実施することができた。



『いきいき健康大学』の様子

兵庫県伊丹市

事業結果と評価概要（令和6年度結果）※一部抜粋

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	低栄養 (ハイリスクアプローチ全3取組区分の総参加者数205人)	69	59	【アウトプット】 ①最終評価実施率 【最終評価実施者におけるアウトカム指標】 ②体重維持・増加人数及び割合 ③生活習慣（食事・運動・その他）改善率 ④セルフモニタリング（血圧・体重・食事）習慣化率	①最終評価実施18人/59人中(30.5%) ②体重を維持・増加11人(61.1%) ③1項目でも改善15人(83.3%) ④1項目でも習慣化14人(77.8%) 主治医へ保健指導の実施可否について許可を得た上で、測定・面談・保健指導を実施している。実施結果は主治医に共有するとともに、終了後は必要に応じて講座案内などポピュレーションアプローチによるフレイル予防へ接続している。令和3年度の事業開始以降、主治医照会の返送率が徐々に上昇していることから、事業の継続により市の取組が認知され始めているように感じている。
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談・フレイルの把握	-	712人 (累計)	【フレイル予防講座（いきいき健康大学）】 ①参加率 ②講義の理解度 ③体操の満足度	①定員に対しての参加率80.5%。 ②「理解できた」「おおむね理解できた」84%「理解できなかった」0% ③「満足できた」86%、「不満である」0% フレイル予防のテーマごとに2～3日間のコースとし、タイトルは参加したいと思えるよう工夫。多くの高齢者が参加できるよう、第2希望までを伺い第1希望を優先して参加していただく。
	(ポピュレーションアプローチ全5事業の累計参加者数2370人)	-	71人 (累計)	【フレイル予防栄養講座（ミステリーツアー）】 ①参加率 ②新規参加率 ③参加者の行動変容	①定員数72人のところ、計71人参加。(98.6%) ②参加者のうち、令和6年度に初参加であった者の割合は76%。 リピーター率よりも新規参加率の方が大幅に上回っていることから、フレイル予防について広く啓発できる機会の一つとなっている。 ③参加後のアンケートにおいて、約2～3割の方が「食事」「口腔」「運動」のそれぞれで新たな取組を開始したと回答あり。一方、約6～7割の方は参加前からすでに継続した取組ができていたとの回答あり。これより、本事業を通して、参加者が普段の生活習慣を振り返る機会になっていることや、新たな手法を取り入れ、より健康的な生活習慣への行動変容を促すきっかけになっていることが窺えた。

課題・今後の展望

- きめ細やかな事業を実施するためには、既存の取組基盤を活用するとともに、多職種連携が重要であると感じている。今後は事業の企画や実施に留まらず、評価にも参画いただく等、より一層多職種との交流を深め連携を強化していきたい。
- 現在、健康状態不明者への支援を検討中だが、他部署の事業を活用しながら、庁内外問わず新たな連携先とのつながりを通して、現状の方法ではアプローチが困難な対象者を必要なサービスへと接続できる支援体制を構築していきたい。
- 一人でも多くの後期高齢者に地域で健康に過ごしてもらうために、一つ一つの事業の魅力等も検討しながら、事業全体の参加者数を増やしていきたい。